緑の架け橋

会報第７号
2006年1月24日

第４回センター総会を開催〔2005年11月16日〕

紅寺堡は３年計画が完了

来年度は中衛市での新事業を始動

平羅県と２ヶ所での植林活動に！

～第４回植林緑化派遣団（2005年9月）の報告も～

平羅県での「日中青年平羅県生態緑化林事業」開工式（０５年４月）と第４回植林緑化派遣団の植林作業の様子（０５年９月）

「緑の大地へ」壮大な取り組みも着々と成果が

緑の架け橋推進センターは、昨年１１月１６日、９月に実施した第４回植林緑化派遣団の報告会を兼ねた第４回総会を開催し、３年次目の取り組み経過を全体で確認するとともに、新年度の活動計画・予算を決定しました。

昨年度は、４月に第３回植林緑化派遣団を実施した際に、新たな事業地である寧夏回族自治区・平羅県渠口郷において「日中青年平羅県生態緑化林事業」の開工式を盛大に実施しましたが、同派遣団の模様が同行取材した大分テレビで特集番組として放映されました。また、９月の第４回松林緑化派遣団では、今年度が３年計画の最終年次にあたる「寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト」の状況確認のほか、来年度から新たな事業地として予定している寧夏回族自治区・中衛市における「寧夏中衛生態緑化モデル林事業」の現地視察を取り組むなど、非常に内容の濃い活動を行うことができました。

今号では、第４回植林緑化派遣団報告とあわせて第４回総会での決定事項をお知らせします。

引き続き、緑の架け橋推進センターの活動にあたたかいご支援・ご理解をいただくとともに、新年度の活動にも積極的な参加とご支援をお願いします。

緑の架け橋推進センター
中国植林緑化活動協力事業

寧夏日中青年平羅県生態緑化林事業／日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林事業
〒162-0801　東京都新宿区山吹町333辻ビル405　TEL.03-3268-4387　FAX.03-3268-6079
口座：中央労働金庫市谷支店（普）0858119.　郵振：00130-9-425994

※本会報は事業主催（ＩＦＣＣ）の植林プロジェクト特集となります。

緑の架け橋推進センター第４回総会を開催

平羅・中衛での事業推進と植林派遣団など活動計画決定

緑の架け橋推進センターは、１１月１６日に東京・麹町会館において第４回総会を開催し、０４年度の活動経過・決算を確認するとともに、新年度の活動にあたり「２００５年度活動計画」及び「２００５年度予算」を決定しました。また、新役員体制も確認されました。

【活動経過】

植林緑化派遣団については、第３回派遣団（２７人）は２００５年４月１５日～２０日の日程で平羅県での開工式を含む植林作業を、第４回派遣団（６人）は２００５年９月２３日～２７日の日程で補植作業を行いました。

「寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト」については、最終年度（第３期）の事業として、１００ｈａに225,000本の植林が助成対象事業として実施され、当初計画の３年間の取り組みが無事に終了しました。同プロジェクトについて寧夏回族自治区人民政府やカウンターパートである中華全国青年連合会からも成功のモデル事例として高く評価されており、紅寺堡地域では、今後は政府と地元・呉忠市の共同事業として、さらに植林緑化事業が継続されていくこととなります。

今年度の新たなプロジェクトとして始動した「寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業」については、４月に開工式を行い、１期目の９０ｈａに165,000本の植林を行ってきています。

また、中華全国青年連合会から紅寺堡におけるプロジェクトの継続として、毛烏素（もうそ）沙漠に隣接する中衛市での植林事業が提案され、「日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト」として日中緑化交流基金への事業申請を行い認可を受けました。同事業は来年度から３年計画で第１期１００ｈａ、第２期１００ｈａ、第３期１００ｈａの植林を計画しており、これにより、来年度（事業年度としては２００５年度）は「寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業」と「日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林事業」の二つの事業を展開していくこととなります。

このほか、緑の架け橋推進センターとして拡大事務局会議（４回）、会報発行（第５号・第６号）、などの活動を行ってきています。

【２００４年度収支報告】（予算０４年１１月１０日～０５年１０月３１日、決算０４年１１月１０日～０５年１１月１４日）

収　入

費目	予算（円）	実績（円）	摘要
繰越金	25,993	25,993	
会　費	1,200,000	567,000	183口
植林協力金	600,000	260,000	3回22口、4回4口
賛助金	800,000	800,000	派遣団参加費用より
助成金	609,000	333,868	ＩＦＣＣより
会場費	300,000	182,000	総会、壮行会
借入金	—	77,951	ＩＦＣＣより
雑収入	—	11,910	第2回派遣団団費剰余分
合　計	3,534,993	2,258,722	

支　出

費目	予算（円）	実績（円）	摘要
事務所間借代	240,000	0	未払い
通信・送料	140,000	88,870	一部未払い
事務局費	620,000	571,391	総会、壮行会、調査旅費等
事業費	150,000	389,307	調査経費立替、資料等
印刷代	280,000	126,000	一部未払い
備品・消耗品	10,000	1,220	コピー等
プロジェクト自己資金	1,351,000	800,000	一部未払い
返済金	250,000	0	
未払金	431,820	229,734	IFCCへ
予備費	62,173	53,420	
合　計	3,534,993	2,258,722	

【２００４年度貸借表】単位・円

貸　方				借　方		借方の説明
通帳	0	郵便振替	0	預り金	250,000	立ち上げ資金
現金	0	助成金	609,000	プロジェクト自己資金	551,000	紅寺堡　216,000、平羅県　335,000
			609,000円	未払金	560,222	事務所間借代、印刷代、会場代等
				借入金	77,951	ＩＦＣＣより
						1,439,173円

貸方－借方＝△830,173円

【２００５年度活動計画】

Ⅰ．植林緑化派遣団の実施

第5回　２００６年4月１４日（金）～１９日（水）　参加目標４０人
日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト開工式及び記念植林
寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業第２期植林
第6回　２００６年９月中旬～10月中旬予定　参加目標２０人
平羅県・中衛市の両事業地における補植活動

※協力団体（労組）ごとに最低参加目標人数を設定して個別に相談していく。
※参加目標数については年度トータルで６０人の達成をめざす。
※中国に訪問するグループのプログラムに寧夏・紅寺堡での植林ボランティアを組み込んでもらうよう要請していく。

Ⅱ．会報の発行

会報第７号・・・総会報告及び第４回植林緑化派遣団報告（紅寺堡・平羅県の植林状況、中衛市事業地視察）。
会報第８号・・・第５回植林緑化派遣団報告（中衛市での開工式、平羅県での第２期植林）。

Ⅲ．会員登録の推進

会員登録の目標として、１２０万円（３千円×４００口）の会費収入をめざして、個別の要請を行う。

Ⅳ．植林協力金の要請

植林活動参加者１人の植林協力金を１０，０００円（植樹１００本分）とし、年度の参加者数分（６０万円）を目標とする。また、植林活動には参加できないが趣旨に賛同していただける個人・団体にも協力金を要請する。

【２００５年度予算案】 05年11月15日～06年11月14日

収　入

費目	予算（円）	摘要
繰越金	0	
会　費	１，２００，０００	400口
植林協力金	６００，０００	60人
賛助金	８００，０００	
助成金	１，１５０，０００	平羅県・中衛市事務経費
会場費	２００，０００	総会、壮行会
借入金	７１０，０００	ＩＦＣＣより
雑収入	—	
合　計	４，７６０，０００	

支　出

費目	予算（円）	摘要
事務所間借代	２４０，０００	
通信・送料	１４０，０００	
事務局費	５２０，０００	総会、壮行会等
事業費	１５０，０００	中衛市開工式等
印刷代	２８０，０００	会報、封筒
備品・消耗品	１０，０００	
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ資金	１，９７９，０００	プロジェクト会計へ
返済金	３２７，９５１	
借入金	—	
未払金	１，１１１，２２２	
予備費	１，８２７	
合　計	４，７６０，０００	

【２００５年度　プロジェクトの事業計画】

区　分	寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業		日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林事業		摘　要
	事業経費（千円）	内　容	事業経費（千円）	内　容	
植林	９，４７９	556,600 本（100ha）	１０，０６４	333,000 本（100ha）	苗木購入、植え付けなど
保育	２，３６３	農薬・肥料等	１，８９０	農薬・肥料等	潅水、施肥、農薬散布、獣害防除
機材調達	１０９		０		造林用作業具、農薬散布機等
基盤整備	１，７８０	灌漑水路整備	２，３６３	灌漑水路、ポンプ等	灌漑水路整備
事務経費	１６９	通信・印刷等	３８３	通信・印刷等	
技術者派遣	４００	派遣旅費等	４００	派遣旅費等	
その他	３，７９７	技術指導等	２，２８１	技術指導	助成経費以外の経費
合計	１８，０９７千円（うち助成 14,300）		１７，３８１千円（うち助成 15,100）		

第４回植林緑化派遣団（２００５年９月２３日～２７日）活動報告

第４回植林緑化派遣団は、９月２３日(金)から２７日(火)までの日程で実施され、総勢６名（参加者氏名は別掲）が参加しました。今回の派遣団の目的は、①平羅県の「日中青年生態緑化林事業」における補植活動、②新たなプロジェクト実施地である中衛市の「寧夏中衛生態緑化モデル林事業」現地視察、③「寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト」の３年計画終了にあたっての進捗確認、の３つでした。

紙面の都合上、すべてを報告できないことが残念ですが、主な点のみを報告させていただきます。

９月２３日(金)

成田集合、北京へ。空港内で夕食をとり銀川へ。銀川空港では、深夜にも関わらず、寧夏回族自治区青年連合会・副主席の曹さんと自治区青農部長の姚(ヨウ)さんの出迎えを受ける（姚さんは寧夏回族自治区での全日程に同行いただく）。空港からホテルへ移動して宿泊。

９月２４日(土)

新たなプロジェクト実施地である中衛市の「寧夏中衛生態緑化モデル林事業」現地視察

ホテルから中衛市に向けてバスで出発。途中で中衛市青年連合会の潘（ハン）書記長と同市農牧林業局長の馬（マー）さんと合流して、プロジェクト地の中衛市宣和鎮南山台区域に向かう。ホテルを出て２時間ほどで現地に到着、中衛市長の王さんの出迎えを受け、用意されたパネルに基づいてプロジェクト内容の説明を受ける。

王市長の説明では、「この地域は古くから沙漠化が進行しており、風に巻上げられた砂が市内中心部や農業地帯にまで及び生活や産業にも重大な影響を与えている。また、市内を流れる黄河に砂が入ることで洪水などの被害につながっており、市としてはこの地域の緑化が重要な課題。中衛市では市内を走る線路に砂が堆積することを防ぐために“草方格法”という砂の定着手法を編み出し、国連からも表彰された経験を持つ（“草方格法”とは、稲わらを６０センチ四方の升目にして砂に敷きこむことで、風による砂の飛散を防ぐとともに植物の種子などの定着を促し、砂地の土質改善を図る方法。敷き詰められた稲わらはやがて肥料にもなる）が、この“草方格法”で沙漠の砂を固定し、そこへ防護林としてポプラやアカシア、椿などを植えるとともに、経済林としてナツメやクコを植える。灌水は黄河から引き込んだパイプラインにより確保される。計画は２００６年度からの３年計画で、最初に北西部、２年次に北東部の植林を行い、３年次には道路を挟んだ南側の植林を予定している。植樹の管理のため専門の管理者を置くこととし、そのための住宅も建設する。また、砂の飛散を防ぎ地域の緑化を進めるという目的と同時に、市の若者にボランティアなどで植林活動に参加してもらうことで環境教育基地としても活用する。現在は経済林に植える予定のナツメの苗を試験的に植えて生育に問題がないかの検証を進めている」とのこと。

派遣団より「緑の架け橋推進センターはこれまで紅寺堡・平羅県でプロジェクトを進めてきたが、成功の鍵の多くは現地の皆さんの情熱と努力にあると思う。その点で、中衛市は“草方格法”という技術的な裏づけもあり、また、管理体制なども信頼できるものと考えている。また、単なる緑化だけでなく青少年の環境問題への意識高揚も考えておられることは素晴らしいこと。ぜひとも、お互いの協力でこのプロジェクトを成功させましょう」とあいさつして、来年度からの事業成功にむけたお互いの協力を確認しあった。

左上は事業予定地の様子。下は「草方格法」。

その後、現地を視察し、市内で昼食交流。昼前から現地でも久しぶりという雨。降水量の極めて少ないこの地域で雨に遭遇することにびっくり。

昼食後に紅寺堡に向かうが、途中、車の渋滞に巻き込まれて大幅に時間をロス。さらに高速道路の紅寺堡出口を降りて一般道路に差し掛かったところで、橋の架け替え工事の迂回路がおりからの雨が川になったことでぬかるんでおり、大型トラックが立ち往生して道をふさいでしまい前進は困難に。(土壌が雨を蓄えられないため少量の雨でも溝に沿って川のようになってしまい、こうした被害が各地で起きるとのこと。日本の山林破壊が土砂災害につながることを思い出し、改めて緑の大切さを感じた）別な道から行っても日が暮れてしまい視察ができないため、やむなくこの日の現地視察はとりやめ、翌日、派遣団の一部が別働隊として現地入りして状況確認を行うことに。

９月２５日(日)

平羅県の「日中青年生態緑化林事業」における補植活動

この日は、本隊が４月に開工式を無事に済ませた平羅県に向かい、補植の植林作業に。銀川市から１時間ほどで現地の平羅県渠口郷に到着。現地の青年連合会の方々や平羅県の林業局の方々のほか、地元の中学生たちに出迎えていただいた。

平羅県における事業地の総面積は約２９０㎢で、４月からこれまでに植林されているのは漳河柳・トネリコ・ナツメ・紫穂槐（クロバナエンジュ）など。初年度の計画に対する現時点での成長率は約８８％で、ここでの作業は、全体の３割が植林作業、残りの７割は維持管理面の作業とのこと。実際に４月の派遣団が記念植林を行ったあたりを案内していただいたが、柳などは２メートルほどに成長して、緑の葉を茂らせており、順調な生育の状況が確認できた。

これからの秋から冬にかけての季節は主に管理の仕事になるということで、特に、①洪水、②火災、③ねずみ・ウサギなどの獣害、④害虫などの被害、から植林地を守ること、が中心とのこと。これらの被害に対する対策として、洪水を防ぐための堤防を作ったり、火災を防ぐために事業地にむやみに人が侵入しないような防護柵を張り、火災が起きたときにはブロワー(風)によって消化するほか、草刈りも防火には重要な作業ということ。動物や虫を防ぐためには薬剤散布が効果的だとのこと。現地では実際に近隣の住民のボランティアの方々が手釜で草刈り作業をしていたが、広大な面積の作業でありかなりの重労働の様子。

説明を受けた後、現地の中学生たちと一緒に補植作業を行ったが、「沙漠」というよりは粘土質に近い土壌のため、穴を掘るだけでもかなりの力仕事であり、４月の事業開始以降の現地の方々の努力を感じるとともに、わずかな時間だったものの自分たち自身で地元の中学生と協力しながら補植作業ができたことはかけがえのない思い出となった。

第４回植林緑化派遣団参加者（６名）

氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
山内幸一郎	自治労（東京）	山中　徹也	自治労（長野）	野中　幹男	自治労（香川）
米村　正則	全農林（滋賀）	東　　大平	自治労（長野）	石橋　朋子	ＩＦＣＣ

寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業／日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林事業

事業主催団体　IFCC 国際友好文化センター
事業助成団体　日中緑化交流基金
推進協力母体　緑の架け橋推進センター
中国側カウンターパート　中華全国青年連合会
事業実施期間　２００４年～２００７年

【２００５年度の役員体制】敬称略・順不同

会　長	佐藤　晴男（総評会館理事長）
副会長	丸山　建藏（全農林労働組合委員長）、佐藤　幸雄（全水道労働組合委員長）、新田　豊作（ＮＨＫ労連議長）、豊島栄三郎（政労連委員長）、君島　一宇（自治労副委員長）
技術相談役	丸山　建藏（全農林労働組合委員長）、足立　則安（全水道共済理事長）、阿部　保吉（全林野労働組合顧問）、君島　一宇（自治労副委員長）
常任委員	今村　佳人、岡崎　徹、井上久美枝、高端　照和、西山　啓二、西岡　裕、巾崎　光雄、鎌田　篤則、宮秋　道男、田中　毅、田中誠太郎、石川　昇、筒井　直樹、吉川　元
会計監査	小林　照明
顧　問	村山　富市、重野　安正、又市　征治、菅野　哲雄、金子　哲夫、東門美津子、山本喜代宏
事務局長	石川　昇
事務局次長	高端　照和、田中　毅、山内幸一郎、鎌田　篤則

これまで植林緑化派遣団に参加された皆さんへ！

『緑の架け橋友の会』に参加してもう一度あの場所を訪ねてみませんか！

中国での環境緑化、日中友好を目標に２００２年１１月にボランタリー組織である「緑の架け橋推進センター」を設立してから３年余りが過ぎ、この間、多くの皆さん方の支援と協力のもとに４回の植林緑化派遣団を事業地である中国・寧夏回族自治区に送ることができました。

さて、その派遣団の中から「自分たちで植林した樹木の生長を確かめるために、あらためて訪中する際の旅費をみんなで積み立ててみてはどうか」との提案があり、事務局で検討した結果、『緑の架け橋友の会』をつくり、そうした要望に応えていくこととなりました。

もちろん、趣旨に賛同いただく方であれば、派遣団参加者以外の方でも結構です。現在、すでに１１名の方が会員登録をされています。

参加にあたっては、簡単な加入申込書を提出していただいた後、任意の積立金を指定する口座に振り込んでいただくだけでかまいません。積立状況は総会に報告するとともに、月報を事務局会議に提出するほか、半年に一度は会員のみなさんに積立状況を報告し、齟齬のないように運営していくこととしています。

現在は２００７年９月ごろの訪中を目標にしていますが、「自分たちが現地のボランティアの方々と一生懸命植えた木がそのころにどんな風に育っているか、そして、寧夏のあの町並みがどんなたたずまいをみせているか」もう一度、自分の目で確かめにいきませんか。

ぜひとも、より多くの方に参加いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

緑の架け橋友の会
事務局長　石川　昇

※「実施要綱」及び「加入申込書」は緑の架け橋推進センター事務局にございますので、お気軽にお問い合わせください。

「寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト」の３年計画終了にあたっての進捗確認報告

現地では呉忠市紅寺堡地区林業局の于（ウー）副局長と紅寺堡地区青年連合会書記長の張（チョウ）女史が出迎えていただき、２００３年の第１期植林地区から順番に生育状況を確認。

第１期地区では記念碑の北側に広がる地域でポプラ・アカシア・椿・柳などがみずみずしい緑色の葉を青々とたたえており、周辺の中でそこだけは立派な林になっている。木の直径も１０センチ近くまで生育しており高さは３メートル弱。話によると、動物の害はなく、若干の虫の害があったが生育には問題なく順調に育っているとのこと。

続いて少し離れた第２期植林地域（２００４年）を視察。こちらは第１期地区よりさらに広い面積にポプラ・アカシア・椿が整然と植えられており、木の大きさも第１期地区よりは若干小さめだが、見事に根付いている様子が確認できた。道の反対側では今後も人民政府と市の共同事業として植林が予定される地域を見せてもらったが、そちらは見るからに砂だけの沙漠で、改めて植林事業の意義が感じられた。この第２期地区では、プロジェクトで植林されたポプラ・アカシア・椿といった防護林の奥側に経済林として桑の木を植えており、将来的には養蚕事業などを展開していくとのこと。見せていただいた桑の木はまだ背丈は１メートル５０センチほどだが、大きめの葉をたくさん付けてしっかりと成長しており一面が見事な桑畑になっていた。また、第２期プロジェクトでは漢方薬の原料として重宝される「梭梭草」の植樹にも取り組んでいるが、こちらも大きなものは２メートルほどに成長している様子が確認でき、現地でも「非常にうまく育っている」とのことであった。この第２期地区では蝶々やトンボが飛び交い、地面ではトカゲやバッタも見られ、小鳥もさえずるなど、動物の姿も確認でき、まさしく一つの生態系がしっかりと確立しつつある様子が確認できた。

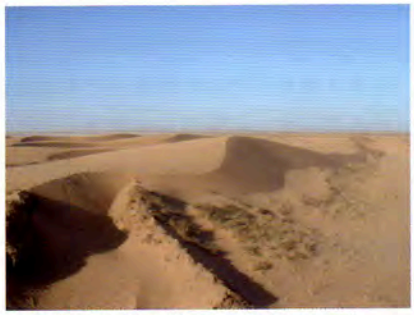
最後に第３期植林地域（２００５年）を視察したが、春に植林されたポプラ・アカシア・椿がしっかりと根付いて、緑の葉を茂らせている様子が確認できた。また、新たな試みとして経済林としての「ぶどう」が植えられており、苗はまだ５０センチほどだが、しっかりとした葉と弦を見せていた。すでにぶどうを植えた一帯には棚が作れるようにコンクリート製の支柱が整然と並んでおり、弦の成長度合いにあわせて張られたワイヤーの高さを上げていくことで「ぶどう棚」ができるのだそうだ。

また、別な場所では寧夏回族自治区の特産品でもある「クコ」の栽培も始まっているとのことだが、移動時間の関係からこちらは残念ながら現地の様子が確認できなかった。于副局長によると「クコもまだ背丈は小さいが順調に生育している。クコについては寧夏ではしっかりとした栽培技術を持っているので、管理さえきちんとすれば問題はない」と自信を持って答えておられた。

紅寺堡での３年間に渡る事業地の視察を行って、事業開始前の一帯が沙漠地帯だった様子が思い出せないほど立派に植林が成功していることが確認でき、事業の成功と今後の経済林などを含めたますますの発展の可能性を強く確信した。技術的にも紅寺堡地区での沙漠緑化に関してのノウハウが確立しつつあることが感じられ、呉忠市の方々が言っておられた「紅寺堡地区の一面を緑化して、一大農業地帯を作る」と言っていたことが夢想ではなく極めて実現性の高いものであることを実感した。また、そうした事業に少なからず関与でき、日本からの派遣団が植えた木々がしっかりと成長していることを誇りに感じるとともに、日中友好の架け橋として、この紅寺堡での植林成功の体験が未来まで語り継がれていくことを願いたい。

寧夏回族自治区・紅寺堡（寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト）の３年間

紅寺堡地区での視察（02 年 11 月）



事業予定地の様子（02 年 11 月）

植林に向け水で砂を固定(02 年 11 月)

寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクトの開工式（04 年 4 月）

記念植林の様子（04 年 4 月）

秋の補植作業（04 年 10 月）

2 年目を迎えたポプラ（04 年 10 月）

05 年 4 月の第 3 回植林緑化派遣団と紅寺堡の中学生ボランティア

しっかりと根付いたポプラやアカシア(左)と事業記念碑付近（最上段中央の写真と同じ位置）の様子（05 年 9 月）